

災害復興と観光 –宮城県石巻市を事例として–

Post-Disaster Reconstruction and Tourism –the case of Ishinomaki City, Miyagi Prefecture

大森 信治郎^{1*}, 青木陽二²

OHMORI, Shinjiro^{1*}, AOKI, Yoji²

¹ 石巻専修大学 経営学部, ² なし

¹Ishinomaki Senshu University Faculty of Business Administration, ²none

本報告は2011年3月11日以降の被災地における地域の状況及びその推移について、自身が被災者である報告者の視点を織り交ぜながら、社会学的及び社会心理学的に考察を加えようとするものである。巨大な自然災害後の地域社会の復興過程において人間の営為、とりわけ移動、交流がどのようになされたのか。また、ツーリズムは其中でどのような役割を果たしているのか。被災地として最も大きな物的・人的被害を受けた自治体の一つである宮城県石巻市を事例として報告する。

被災者の状況と被災地の復旧段階

被災者のおかれた状況によって、現地の一年間の復旧過程は主に4つの段階に分けて理解することができる。生存の確保の時期、生活の確保の時期、生計の確保の時期、生活環境の整備の時期、の4つの段階である。

被災者心理と支援活動

被災者の緊張感は時間の経過とともに低減する。緊張感は感受性を高める働きを持つ。このことは来訪者に対する被災者の感情と密接な関係を持つと考えられる。

ボランティアかツーリストか

震災直後多くのボランティアが来訪し、復旧に大きな役割を果たした。大手の旅行会社をはじめ多くの「ボランティアツアー」が企画実施された。被災者の中には、被災状況を観光されることに少なからぬ抵抗感を持つ者もいる。しかし、一方では観光は復興に重要な役割を果たしている現象でもある。

“ Reconstruction Support Tourism ”

被災地をめぐる観光の復興に対する役割に注目して、これを“ Reconstruction Support Tourism ”(以下RST)と呼ぶことを提唱する。一部に、自然災害を含めて本来当事者或いは人類にとって好ましくない事象をめぐる観光を“ ダーク・ツーリズム ”と呼ぶ傾向があるが、少なくとも被災地の訪問のすべてにこの語を用いるのは極めて不適切と考えられる。

知の集積の必要性

RSTの例としては、ボランティアツーリズムなどがあげられるが、ひとつの可能性として考えられるものの中に、防災研修ツアーがある。こうしたツアーを実施するためには、現地に災害や防災に関する大きな知の集積が必要であると考えられる。本ミーティングに参加されている皆様の協力をお願いしたい。

キーワード: 災害復興, 観光, ボランティア, 復興支援, 緊張感, 被災者の感受性

Keywords: post-disaster reconstruction, tourism, volunteer, reconstruction support, stress level (degree of tension), sensitivity of disaster victims